



## 少年の主張 県大会知事賞

去る9月19日に行われた「少年の主張 県大会」で知事賞になられた山本さんの作文を掲載します。  
みなさん、ぜひご一読ください。

### 「会話のすゝめ」

福井県陽明中学校 3年

山本 真実

今年に入って1回か、2回あったでしょうか。最近、電話を手にする、私の友達から自分に電話が、かかってきたらどうかと、考えてしまうのです。少なくとも、1回は緊急連絡があったような…。

私自身、自分用の携帯電話を持つようになってから、電話をかけるよりメールですませてしまう事が、多くなってしまいました。なぜなら、いざ電話をかけるとなると、相手の都合や時間帯、曜日などを少なからず気かけなくては、失礼になってしまうからです。それに対し、メールでは相手が今、都合が悪くとも自分の都合に合わせ、返答できるのです。このような点から、最近では電話よりも、携帯電話でのメールの方が、重要視されているのではないのでしょうか。さらに、気軽にメールなどの方が出来る私達の世代では、電話に対する抵抗が出来てしまっているのではないのでしょうか。

今年、6月に修学旅行で東京へ行きました。バスに揺られながら東京の街を見ていると、何か足りないのです。公衆電話の姿が見あたりません。街から公衆電話が消え、街をいきかう人々の手には、必ず携帯電話。隣に友達がいるのにメールを打つ人たち。

本当にこれでいいのでしょうか。私達は、便利さの代わりに何かを捨てようとしていませんか。

昔に比べ、電話をせずメールを打つ方が多いということは、会話をするのを避けているのに等しいという事になります。大げさかもしれませんが、そうなるのです。会話を避けるという事は、話し言葉の表現を学べない事に等しく、学べないという事は、表現を狭くし、自分の中で納得するしかない場合が、多くなる事に等しいのです。

学校で友達と会話をしていても話がかみ合わず、相手に伝えることを諦め、自分の殻に閉じこもるようになり、会話で相手との間に壁をつくることによって、自分で自分の世界に限界をつくってしまっているように感じられるのです。

このような時代だからこそ、私は私と同じ今を生きる人達に伝えたい。もっと周りを見て下さい。信頼をおける人にもっと、自分を話して下さい。伝えようとする自分に素直になって下さい。もう、ニュースで同じような年齢の子の悲しい知らせを聞きたくはない。

私の祖父は、今入院しています。病院で急に倒れ、私にはよく分からない病名を背おっています。祖父は、もう70年も生きたからいいなんて言わず、お見舞いに来た私を笑顔で迎えてくれます。私が友達のこと、勉強のことを話していると、うなずきながら、

「わしは、まあが嫁に行くまで生きる。」

と、口ぐせの一言を言い、一段と笑顔が輝きます。その笑顔を見ていると話す言葉というのは本当に魔法のように思えてくるのです。

また、私は家に帰るとその日1日の出来事を家族に話すようにしています。母に話すと、私がある時考えもしなかったアイデアや、言葉が返ってくる時もあり、退屈しません。自分では黒だと思っても、白に考え直す機会をくれるのが会話です。ぜひ試してみてください。もし、親が仕事で忙しく、顔を合わせる機会が少ないという人でも、共通の時間が少ないという事を、逆に話のネタが多くなるのだと、考えてみてはいかがでしょうか。家族で夕食でも楽しみながら、心の壁をぶち抜いてみてください。その壁の向こうには、必ず今まで見えていなかったものが見えてくると思います。

一度きりの自分の人生、井の中の蛙で終わる気なんて、私にはさらさらありません。私は、自分に限界を作らずにどんどん成長していきたいと考えています。みなさんも、大きな世界に出て自分の力がどれだけのものか、試してみたいと思いませんか。

でも、その為になにも、大きなことは、考えなくてもいいのです。自分が成長するには、何よりも日頃から周りの人と、たくさんしゃべるとい事が一番だと私は考えます。だからこそ、私は、みなさんに自信をもって会話をおすすめいたします。

